

検証結果【地域再生計画関係】

No.	地域再生計画名	計画概要	計画実施状況	計画の最終目標値の達成状況	検証委員からの評価・意見等	計画全体の総合評価
1	「豊かな緑と藍色のまほろば美馬市再生計画」	<p>市道・林道の一体的な整備により、森林施業地や点在する観光スポットと幹線道路のアクセス改善を図るとともに、集落ネットワークを構築して、暮らしの安全と利便性の向上を図る。</p> <p>計画期間は平成28年度から令和2年度までの5年間である。</p>	<p>市道整備の整備量は、計画の17.81kmに対して最終実績は11.16kmとなった。計画量に対する交付金の交付率が低く、目標に届かなかった。</p> <p>林道整備の整備量は、計画の7.85kmに対して最終実績は9.49kmとなっており、目標値を達成した。</p> <p>計画外の事業として、「社会資本整備総合交付金事業」や「『集落ネットワーク圏』による『小さな拠点』形成事業」等を実施し、観光施設の整備や主要幹線道路へのアクセス向上、まちづくり協議会の立ち上げ及び「小さな拠点」の形成等に取り組んだ。</p>	<p>市産木材年間搬出量の増加 R2目標値：27,000m<sup>3</sup> R2 実績：23,732m<sup>3</sup></p> <p>市内観光地点観光入り込み客数の増加 R2目標値：80万人 R2 実績：54万人</p> <p>「小さな拠点」の形成 R2目標値：4拠点 R2 実績：6拠点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年のウッドショックによる国際的な木材需要の増大を踏まえると、林道整備による木材搬出量の増加や林業を支える地域住民の維持は非常に重要な施策と思われる。</li> <li>・林道整備による木材搬出状況の改善を、林業の事業者へのアンケート等の形で確認できないか。</li> <li>・観光についても、市道及び林道整備は一定の効果があると思うが、その繋がり是不明確であることから、森林セラピーや林業体験等の森林や林業を活かした観光を明確化し、具体的な目標値に落とし込むべきである。</li> <li>・コロナ禍の影響により観光入り込み客数の評価が困難だが、全体としては一定の成果が得られたと考える。</li> <li>・市道及び林道の一体的整備には予算措置の影響が大きい。道路整備は今後も続くが、それと並行して情報網の整備も不可欠であり、集落ネットワーク構築のための美馬市版DXを推進することも課題であると考えられる。</li> <li>・まちづくり協議会の立ち上がりだけでは、地域活性化には不十分である。それぞれの協議会の具体的なロードマップ作成と地域住民への周知と行動が重要である。</li> <li>・集落の点在と分散による医療、情報、教育、交通さらには消費の格差は、生活の利便性の格差に直結することから、「小さな拠点」形成には、市特有の地理的課題の克服として是非、今後も重点的に取り組んでほしい。</li> </ul>	<p>数値目標を達成した項目があることから、木材搬出量の増加や集落ネットワークの確保に一定の効果があったと考える。</p> <p>地方創生道整備交付金を活用し、市道と林道を一体的に整備したことにより、「豊かな緑」を活かした「藍色のまほろば美馬市」のまちづくりに貢献したと考える。</p>